

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	音楽と社会 (Music and Society)	新座(Niiza)	
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	シンフォニーの歴史		
担当者名 (Instructor)	大津 聡(OTSU SATOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

シンフォニーの歴史において、今日レパートリーの中核を成す時代の作曲家とその作品を取り上げながら、主にヨーロッパ社会との関係について多面的な理解を深める。

This course will deepen students' understanding of the relationship of the history of symphony with European society from multiple perspectives, while taking up composers and their works of the era that form the core of the repertoire today.

授業の内容(Course Contents)

講義。シンフォニーは社会や時代精神の変遷とともに発展し、同時にシンフォニーの役割や理想も変化してきた。本講義では、各時代(古典派、ロマン派)の諸相に、具体的な作品と特定のテーマをもってアプローチする。授業内容のイメージを明確にするため、以下の授業計画には、あえて主に言及する予定の作曲家名や作品名等を記した。

Lectures. The symphony has expanded with the transition of society and the spirit of the age, and at the same time the role and ideal form of symphony has changed. In this course, we will approach multiple aspects of each period(classical-romantic) through particular works and specific themes. In order to make the course contents clear, in the following course plan, we have intentionally written the names of the composers and works, etc. which we plan to focus on.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンスと導入:「シンフォニー」とは何か?
2. 前古典派:シンフォニーの誕生と型の形成
3. ヴィーン盛期古典派 1:エステルハージ公爵邸楽長時代の J. ハイドン
4. ヴィーン盛期古典派 2:J. ハイドンのロンドン滞在と《ザロモン・シンフォニー》
5. ヴィーン盛期古典派 3:W. A. モーツァルトのシンフォニー創作
6. ベートーヴェン 1: 転換期としてのベートーヴェン
7. ベートーヴェン 2:《田園シンフォニー》と「標題」
8. ベートーヴェン 3:《第九シンフォニー》におけるジャンルの拡大
9. ポスト・ベートーヴェンのシンフォニー
10. ベルリオーズの管弦楽作品:「標題シンフォニー」の新たな展開
11. ブラームスとブルックナー:絶対音楽としてのシンフォニーへの回帰?
12. ナショナル・シンフォニー:国民主義音楽とシンフォニーの国際化
13. マラー:最後の(?)シンフォニストとそのジャンル意識
14. R. シュトラウスと管弦楽作品:「シンフォニー神話」の崩壊

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本授業は音楽作品とその社会的コンテクストに光をあてるものであるが、音楽を扱う授業である以上、可能な限り、視聴覚資料に触れたい一方で、シンフォニーというジャンルは規模が大きく、いわゆる「鑑賞」レベルの時間は取れない。それ故、メディアの種類は問わないが、授業時間外で作品に触れる機会を積極的に設けること。また、授業で用いたスライドは、後日ブラックボードにアップするので、とりわけ各回の流れの理解に役立てて欲しい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

原則授業毎のリアクションペーパーの内容 70%、小レポート 30%(100%)
なお、4分の3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト(Textbooks)

特定のテキストは用いない。随時プリントを配布する他、授業で用いたスライドは、後日 PDF ファイルとしてブラックボードにアップする。

参考文献(Readings)

初回授業時に参考文献表を配布する他、随時紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

本授業ではブラックボードを活用する。

注意事項(Notice)